

# 当院で経験した十二指腸出血における

## 止血困難例の検討

### 情報公開文書

日本赤十字和歌山医療センターでは、以下にご説明します研究を実施します。この研究への参加を希望されない場合は、研究不参加とさせていただきますので、下記のお問い合わせ先にお申し出ください。またお申し出された場合でも、いかなる不利益を受けることはございませんので、ご安心ください。

#### 研究目的

日本では、胃・十二指腸潰瘍に対しては、プロトンポンプ阻害薬の出現と H. pylori 除菌療法にて飛躍的に改善しております。出血性消化性潰瘍に対する第一選択は内視鏡治療であり、一時止血率は 80-90%程度と有効性が高いと報告されています。十二指腸出血においても、内視鏡的止血術は有用な治療法ではありますが、解剖学的に死角が多いことやスコープ操作が難しいことから、再出血を繰り返し止血に難渋する症例もしばしば経験します。胃・十二指腸潰瘍に対する内視鏡的止血術後に再出血を来たすリスク因子に関する報告は少数しかなく、十分に検討されているとは言い難いのが現状です。今回、十二指腸出血に対する内視鏡的止血術が困難な症例のリスク因子を同定すべく、当院で十二指腸出血により入院加療を要した方を対象に止血困難症例の臨床的特徴を検討・解析することとしました。

#### 研究期間

当院倫理委員会承認後から 3 年間の予定

#### 研究の対象となる方

2017 年 1 月 1 日から 2022 年 5 月 31 日の間に日本赤十字社和歌山医療センターで上部消化管内視鏡検査を施行し、十二指腸出血と診断し入院加療を要した方

#### 研究の方法

電子カルテを使用して、匿名情報に加工したデータを使用します。このデータをもとに、十二指腸出血の内視鏡的止血困難例のリスク因子を統計学的に調査します。

#### 使用する情報および個人情報の保護

患者さん個人番号（ID）と氏名が含まれていない状態で、電子カルテからデータを抽出します。また研究用パソコンは、インターネットにつなぎません。発表から 10 年程度データを保存しますが、その後に適切にデータを破棄します。

#### 研究資金・利益相反について

該当する利益相反はなく、研究資金は日本赤十字社和歌山医療センターから提供されません。

#### 研究計画書などの入手・閲覧方法・手続き

研究計画書などは入手閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

#### 個人情報の開示にかかる手続きについて

ご自身の情報を閲覧可能です。ご希望される場合は、下記までお問い合わせください。

#### 研究責任者

森久 芳樹 日本赤十字社和歌山医療センター 消化器内科 医師

#### 共同研究者

岩上 裕吉 消化器内科 副部長

赤松 拓司 消化器内科 部長

#### お問い合わせ先

日本赤十字社和歌山医療センター 総務課

電話 073-422-4171（代表電話）

所在地 〒640-8558 和歌山市小松原通 4-20